

1 教育目標及び子ども像・教職員像・学校像

教育目標

嵯峨・嵐山・広沢地域の豊かな自然と文化の中で、

- ・「確かな学力の定着」と「進路の保障」
 - ・「キャリア教育」の充実
 - ・「学級、学年集団活動」の充実
- を通して『嵯峨の心』の育成を目指す

目指す子ども像（「嵯峨の心」の育成から）

- ① 感動する心・やさしい心・豊かな感性を持つ生徒の育成
- ② 正義感や公正さを重んじる心を持つ生徒の育成
- ③ 生命を大切にし、違いを認め合うなど、人権を尊重する心を持つ生徒の育成
- ④ 嵯峨・嵐山・広沢地域の環境や伝統文化を大切にする心を持つ生徒の育成
- ⑤ 「自己有用感」が持てる生徒の育成
- ⑥ 学ぶ意欲と実践力あふれる生徒（「一生懸命はカッコいい」を実践する生徒）の育成

目指す教職員像

- ① 目指す生徒像を念頭に置きつつ、その実現に向けて、仕掛けと働きかけを積極的に行い、生徒にかかる教職員、かつ、生徒の背景に迫り、必要な手立てを講じる教職員であることを目指す。
- ② 教育目標を理解し、共有し、共にチーム（組織）の一員として実践する教職員集団であることを目指す。
- ③ 「全力を出し切る。途中であきらめない。（嵯峨中魂）」生徒の育成のために、「手を抜かない・突き放さない・時間を惜しまない」生徒指導を実践する教職員集団であることを目指す。

目指す学校像

『地域とともにある学校づくり』を目指して、取り組む。

- ① 地域とともに「環境保全」や「観光振興」をテーマに取り組みを行い地域に貢献する。その中で、生徒の自己有用感の獲得を目指す。
- ② 生徒は「環境学習」や「持続可能な社会を目指した取り組み（ESD）」を通して学びを獲得する。

2 学校経営方針

- ① 「生きる力」と「嵯峨の心」の育成。生徒の学ぶ意欲と自己評価を高めるための創意工夫ある教育活動を実践する。
- ② 地域との交流を重視し、地域とともにある学校づくりに取り組む。その中で生徒が育つことを目指す。
- ③ 学校教育目標を理解し、共有し、共にチーム（組織）の一員として実践する教職員集団をつくる。

3 今年度、徹底する取組

- ① 『全力を出し切る、途中であきらめない（嵯峨中魂）』生徒の育成。「一生懸命はカッコイイ」の実現。（さまざまな教育活動の中で自己有用感を獲得させる）
- ② 授業の中で、自己有用感を感じさせるように授業改善に取り組む

今年度の重点目標

平成 24 年度から、学習指導要領が全面実施されて 4 年目となる。その狙いを考慮し、本校の教育力向上と地域に根ざした「特色ある学校づくり」をすすめるために、以下の重点目標を設定する。

- ① 確かな学力の向上を図る取組の推進【学習指導】
- ② キャリア教育を柱とした教育活動の推進【生き方探究教育】
- ③ 学級集団づくりの充実【学級指導】
- ④ 持続可能な開発のための教育（E S D）の推進。環境教育の充実【今日的課題に対する取組推進】
- ⑤ 人権文化の定着【人権学習指導】
- ⑥ 規範意識の育成に向けた取組の推進【生徒指導】
- ⑦ 小中一貫（京都嵯峨学園）教育活動の充実【小中連携の推進】

平成 27 年度重点目標の詳細

① 確かな学力の向上を図る取組の推進【学習指導】

生徒の学習意欲向上と学力定着のために以下の取組をすすめる。

- 学年会・教科会の中で学力向上に向けた研修ができる時間の確保。
- 教科の指導と評価の一体化を確実に（生徒の意欲を向上させる評価）
- 学力の向上につながる授業研究と諸調査結果を生かした授業の改善
- 言語活動を通しての思考力・判断力・表現力の育成のための教育活動の実践（朝読書の充実・全教科での工夫）
- 家庭学習の充実（宿題の適切な質と量の工夫）
- 「学習確認プログラム」・「全国学力状況調査」の結果を検証し、放課後の特別学習会（GPSP）や長期休暇集中講座・定期テスト前学習会、土曜学習等、課題解決に向けた教育の実践
- すべての教育活動（挨拶・朝読書・部活動・学級活動・学校行事等）が授業に生かされる実践
- 発達障害のある生徒への理解を深める研修の実施と実践

② キャリア教育を柱とした教育活動の推進【生き方探究教育】

- 課題解決学習で地域を学ぶ（嵯峨学）と地域で学ぶキャリア教育の実践（人生学）を中心に、これまで取り組んできた教育活動をさらに推進する。体験重視の学習で、勤労観・職業観等のキャリア発達を促し、「生きる力」・「嵯峨の心」を育てる取組を実践する。

③ 学級集団づくりの充実【学級指導】

- 確かな学力の向上には、学校生活の基盤となる学級集団づくりを基にした学習環境の整備と生徒の自己有用感を高めることが必要であり、学級づくりのための創意工夫ある取組の充実を図るとともに、Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）・クラスマネージメントシートを学級づくりに活用する。
- 発達障害をはじめとする特別支援を必要とする生徒を含めた学級づくりの充実

④ 持続可能な開発のための教育（E S D）の推進。環境教育の充実【今日的課題に対する取組推進】

- 地域と連携した環境教育を推進し、持続可能な社会を形成する主体者たる生徒の育成
- 人権教育・平和教育・国際理解教育・多文化共生教育・福祉教育等も含み、E S Dの推進に取り組む。
- 具体的な活動の推進（身近な環境について調べる・環境壁新聞の制作・嵐山フィールドワーク・嵐山植樹活動・土産物企画・環境についての講演会・大堰川水草取り・嵯峨中パレード・嵯峨中フェスタにおけるポスターセッション・嵐山花灯路・小倉山植樹活動・地域清掃活動等）

⑤ 人権文化の定着【人権学習指導】

- 人権についての理解と定着のために、参加体験を取り入れる等、各学年の人権学習の取組を推進する。

⑥規範意識の育成に向けた取組の推進【生徒指導】

- 嵯峨中生徒として、規範意識を向上する。
 - ・きまりや約束を守る意識の向上
 - ・いじめをやめる意識の定着
- 生徒理解に基づき、積極的な生徒指導を推進する。
- 全教育活動を通じて、道徳教育の充実を図る。
- 授業改善を通しての実践
 - ・授業中、生徒の集中力向上のための工夫（起立、礼の徹底等、学習規律の確立・授業前の教室の整備）
 - ・自己有用感を持たせることができる授業実践
- 基本的な生活習慣の確立（「早寝・早起き・朝ごはんに朝読書」の意識向上等）、個々の生徒の課題を把握理解し、その解決のために指導を徹底する。
- 「全力を出し切る。途中であきらめない。」という“嵯峨中魂”的育成と、全教職員が「手を抜かない・突き放さない・時間を惜しまない」生徒指導を実践する。

⑦小中一貫（京都嵯峨学園）教育活動の充実【小中連携の推進】

- 地域を含めた小中連携による授業・行事等の取組（「京都嵯峨学園」としての取組）の推進。
- 小中連携した教科指導など、教師間連携の充実。

平成27年度研究テーマ（研究指定等）（平成27年3月現在）

- ①「教育課程研究指定校事業 研究課題5（4）E S D テーマ『地域との連携によりE S Dを推進する教育のあり方を研究する』」（国立教育政策研究所指定）…2年次
- ②「豊かな学びリーディングスクール、E S D・環境教育 テーマ『地域との連携によりE S Dを推進する教育のあり方を探究する。』」推進事業研究指定（京都市教委指定）…応募予定